

## 月曜日の宿命

荒野 喆也

週七日制度と曜日が制定されたのは古代メソポタミアの国、バビロニアであった時代だと推測されているが、その中で月曜日が世界的に特に話題を多く提供している。まず、歴史的な事件としては、ヒトラー内閣成立(一九三五年)・真珠湾攻撃(一九四一年)・ニコソンショック(一九七一年)・ジョンレノン銃撃事件(一九七四年)・米サンデイゴ銃乱射事件(一九八五年)・ブラックマンデー株価大暴落(一九八七年)・ベルリンの壁崩壊(一九八九年)・地下鉄サリン事件(一九九五年)等である。

中でも、人気歌手としてのジョンレノン事件は、その後「月曜日は大嫌い」という歌が大ヒットした。さらに、サンデイゴ銃乱射事件は、十六歳の少女が銃を乱射し子供一六人を含め一八人を殺傷した。この時の警察の訊問に対しては、犯人の少女は「月曜日が嫌いだから」の犯行声明が話題を呼んだ。また、国際的に波及効果の大きかったのは、ニューヨークの株価大暴落で、米国以外にも株価に大きな影響を与え、月曜日に起こったことから「ブラックマンデー」といわれた。

ベルリンの壁の破壊事件は、東ドイツ市民の大量出国の事態にさらされていた。東ドイツ政府が、政令を「事実上の旅行自由化」と受け取れる表現で発表したことで、ベルリンの壁の市民による撤去作業が始まった。サリン事件については、オーム真理教が教団本部の立ち入り捜索に對抗して、日比谷線の地下鉄にサリンをまいた事件である。筆者も同じ日時に神谷町駅に居合わせ、影響を間接的影響を受けたが何が起こったのか皆目わからず右往左往したことを想いだした。特に月曜日に事件が起きやすいということとで、調査会社が二〇〇〜五〇歳代の男女二二〇〇人に調査した資料があるが、月曜日が特に高いということが分かる。

